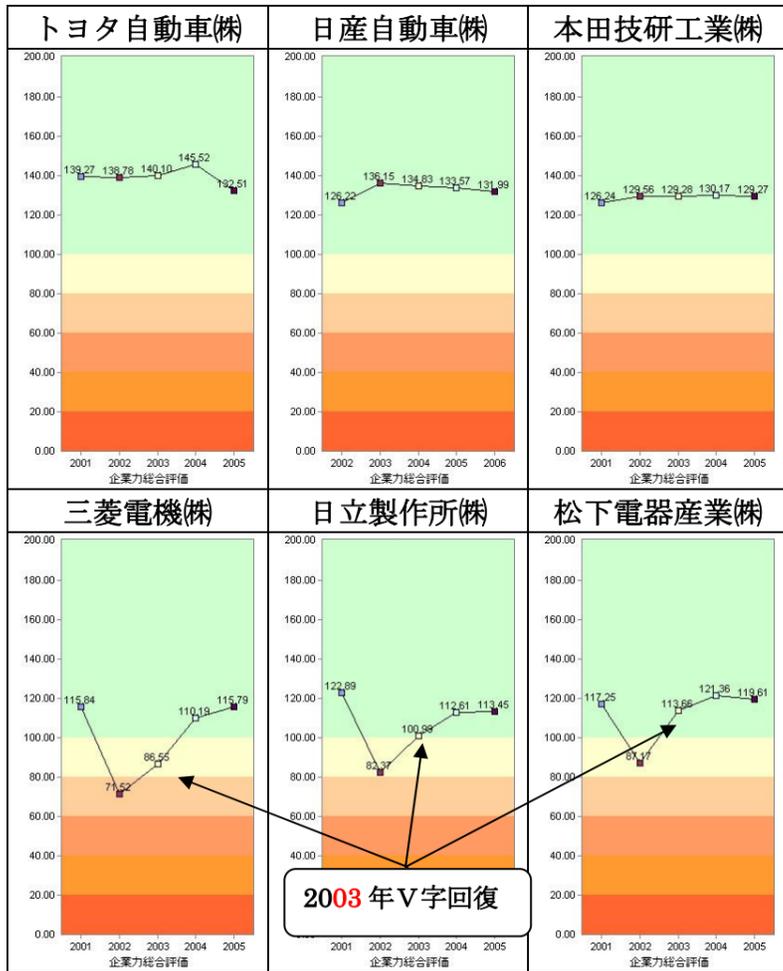
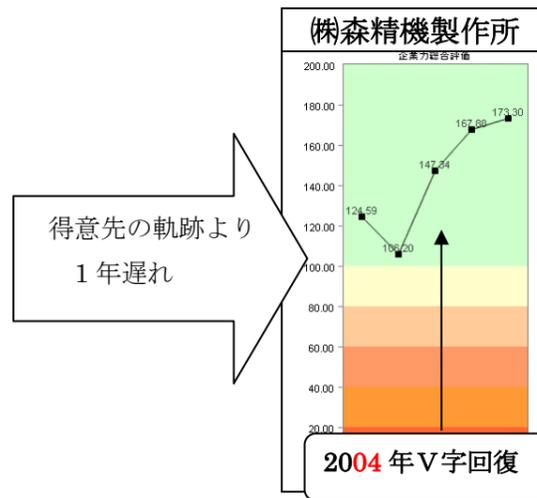


今回は、日系工作機械メーカー大手の株式会社森精機製作所を見てみましょう。(株)森精機製作所は、子会社43社、関連会社5社で構成され、工作機械（マシニングセンタ、数値制御装置付旋盤など）及び計測機器の製造・販売をしています。



(株)森精機製作所の得意先は、自動車産業、家電各社と言えます。左はトヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、本田技研工業(株)、三菱電機(株)、日立製作所(株)、松下電器産業(株)の2001年から2005年までの企業力総合評価を表しています。自動車各社は5年間を通じて青信号領域を安定したポイントをつけています。しかし、家電各社は2002年の家電不況で鋭い谷を形成しています。家電各社のV字回復は2003年です。

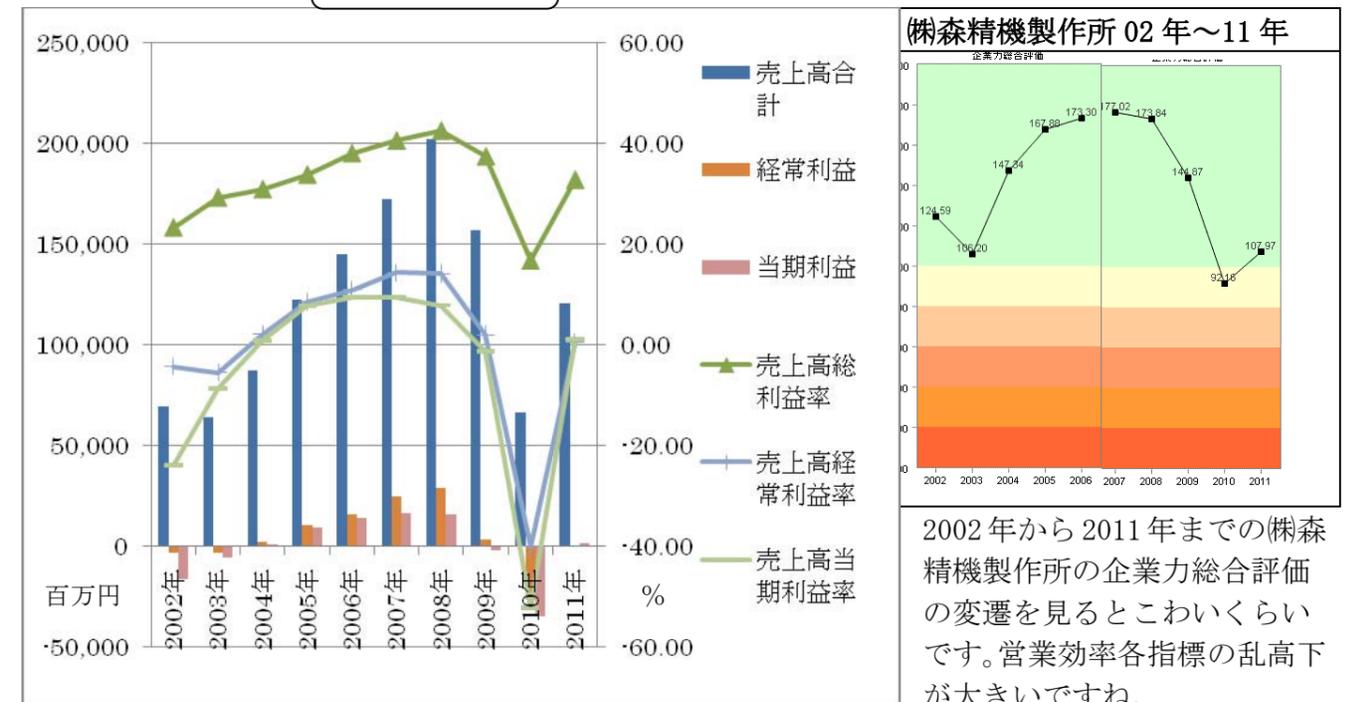
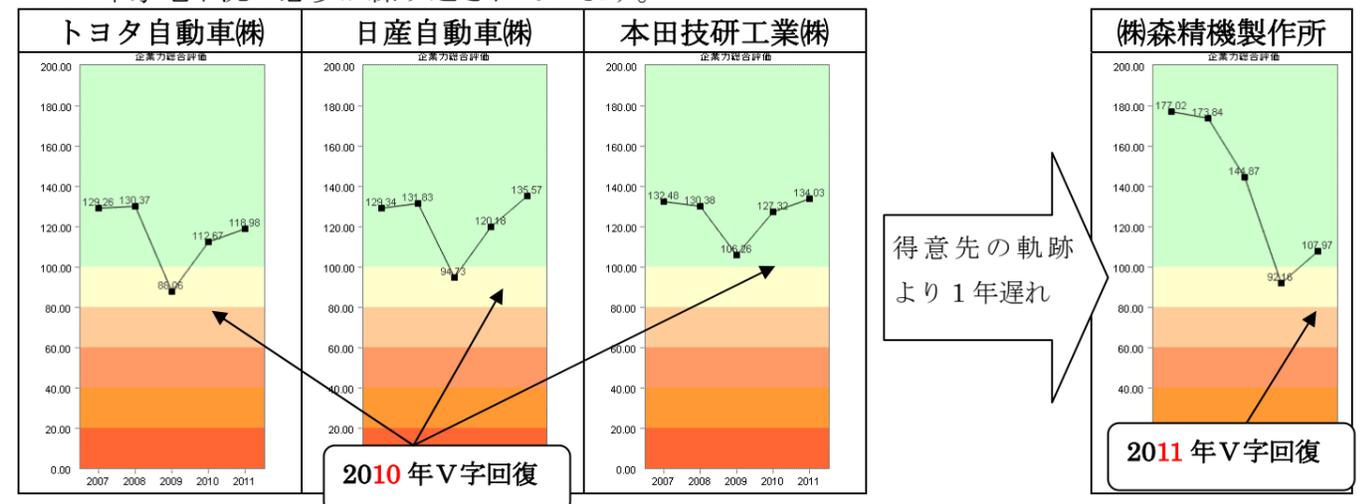


右上、(株)森精機製作所の2002年から2006年までの企業力総合評価を見て下さい。(前6社の1年後ですので気を付けて下さい。) (株)森精機製作所は2003年に谷で、2004年にV字回復をしています。(株)森精機製作所の企業力は、得意先の軌跡の1年遅れであると言えます。

どんな会社も、変化させなければ得意先のコバンザメになってしまいます。その為、得意先の業績に無関心であると、いい時はいいですが、悪化して来れば、自分も同じように沈むことを意味します。得意先の債権管理をされることは多いですが、営業戦略として得意先を分析する必要があります。もし、悪化してくるのであれば、海外や他業界への新規開拓が必要になります。

さて、その後、(株)森精機製作所は2002年の家電不況の失敗を克服出来たのでしょうか？

下は2007年から2011年までのトヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、本田技研工業(株)、(株)森精機製作所の企業力総合評価です。2009年リーマン・ショックで企業力は大きく谷を刻みました。2010年に各社がV字回復をする中で、(株)森精機製作所は2010年が谷、2011年にV字回復しています。2002年家電不況の悪夢が繰り返されています。



2002年から2011年までの(株)森精機製作所の企業力総合評価の変遷を見るとこわいくらいです。営業効率各指標の乱高下が大きいですね。

まとめ

自社をとりまく環境をマクロで見ると、景色が変わり見えてくるものがあります。その気付きは発想を切り替えさせ、営業戦略のヒントになります。

編集後記

高い所から街を見下ろすと、小さな人や車が動いている様子が、サイレントムービーのように見えます。誰もがそれぞれに一所懸命生きているような気がして、ほっとします。

文責MS

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所
Tel.06-6631-4570 Fax.06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp